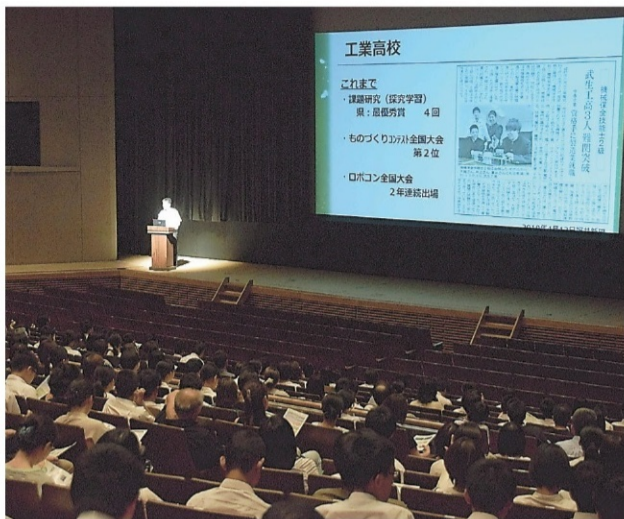


## 来春開校の武生商工高

# 選択にホルトガル語



現在の武生工高、武生商高の生徒の活動などが紹介された武生商工高の説明会。18日、越前市文化センター

## 地域性を考慮

武生商高と武生工高が統合して来春開校する武生商工高(仮称)について、両校の教員らでつくる「丹南地区新総合産業高校準備委員会」は18日、ものづくり企業で働く外国人が多い丹南地域の特性に合わせ、県内高校としては初めて3年生の選択科目にホルトガル語を設けることを明らかにした。(高島健)

説明会、560人が参加

越前市文化センターで開かれた学校説明会で発表があった。同準備委員長を務める柄

新校はこれまでの両校の伝統を引き継ぎながら、3年生では選択科目で工業系の生徒が簿記、商業系の生徒が製図を学べるカリキュラムを組み、工業と商業それぞれのノウハウを生かして社会の変化に対応できる職業教育を目指す。さらに、3年生の選択科目にホルトガル語を追加。越前市内の製造業で多く働くブラジル人らと、簡単なコミュニケーションが取れるようサポートしていく。教員の採用や詳しい授業内容は、来春入学の生徒が3年生になる22年度までに準備を進める。

新校は当面は武生商、武生工両校を使用する2キャンパス制とし、2025年度に現在の武生工の場所に集約させる計画。学科は商業系を現在の3学科から、商業マネジメント科(2クラス)、情報ビジネス科(同)の2学科、工業系は4学科から都市・建築科(1クラス)、電気情報科(同)、ものづくり科(2クラス)の3学科に再編する。学科名はいずれも仮称。説明会には進学を検討している中学3年生や保護者ら約560人が参加し、カリキュラムや卒業後の進路などについて関心を深めていた。工業系学科を検討している武生六中の男子生徒は「ドローンなどの先端技術も学べると知って興味が増えた。商業と一緒に」と男女共学の雰囲気がよく

り高まり、楽しい学校になりそう」と期待を膨らませている。